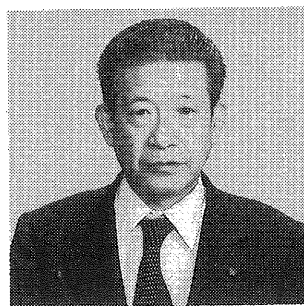


日韓トンネル建設に 寄せて



日韓トンネル研究会参与 黒田 晃*

一九八一年に「国際ハイウェイ・プロジェクト」として文鮮明師によって提唱され、一九八三年に「日韓トンネル研究会」が民間有志によって設立されて、その実現性について技術的研究は勿論のこと、社会、経済問題についても真摯な研究が行なわれております。このハイウェイプロジェクトは日本と大陸を結び、更に東洋と欧州諸国を高速道路網で結び、未来の理想世界を実現するための具体的な計画の一部であり、世界の平和に貢献し、新しい世界関係を創造しようとするものであって、戦前の植民地政策に基づく計画とは根本的に異なるものであります。

現在世界の情勢は大きく変革し、東西の緊張は緩和されつつあり、北朝鮮と韓国との関係も統一に向かって一歩が踏み出されるという状況下にあります。また我国の経済は大幅な貿易黒字となり、経済的に各国から批判されており、貿易よりも内需振興による経済発展が強く要請されている現状であります。一方、十年にわたる日韓トンネル研究会の調査・研究の成果も膨大な量となっております。日韓トンネルの実現に向けて諸条件は整ってきたといえましょう。

奈良時代、シルクロードを通じて西欧・東洋文明の恩恵を受けて今日までに発展してきた我国は、今や逆に国際ハイウェイを通じて世界の先端をゆく日本の技術力・経済力をアジアをはじめとして世界の国々に移転すべきであります。その意味においてもハイウェイの重要な部分を占める日韓トンネルの早期実現が強く望まれます。実現に一歩近づけるためには、

一、国際プロジェクトであるため、韓国をはじめ関係国の十分な理解と協力を得ることが必要と考えます。

一、事業主体をどうするかの問題は別として、国のプロジェクトとして取り上げていただいた上で、グローバル・プロジェクトとして認知されることが必要と考えます。日韓トンネルほど調査が進んでいないジブラルタル海峡トンネルがグローバル・プロジェクトの一つとして既に認知されていることを考えなければなりません。

一、技術的調査を更に進めると共に走体を定める時期と考えます。

等々が必要であります。

青函トンネル・本四架橋を建設した我国の技術は、世界一流のレベルであり、日韓トンネルの実施に何の不安もありません。昨今、国土第二幹線軸の必要が叫ばれておりますが、日韓トンネルはこれ以上に価値あるプロジェクトであると確信いたします。新春にあたり、国際ハイウェイプロジェクト・日韓トンネル構想が一日も早く世界に認知され、実現に踏み出すことを期待してやみません。

* 日本工営(株)代表取締役副会長 元北海道開発庁事務次官